

■児童・生徒の学力の状況

- 「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では「文章の構成を考える」などの思考・判断・表現に関する平均正答率が低い。算数では、「角の大きさ」や「はかりの目盛りを読む」の知識・技能に関する平均正答率が低い。
- 問題解決に向けて、自分の考えを整理し、目的や意図に応じて伝えたいことを分かりやすく表現することが苦手な児童が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 児童が主体的に学習に取り組む時間の確保や、自分の考えや思いを表現するための手だてや指導の工夫が不十分である。
- 自分の考えを相手に伝える方法(文章の書き方、話し方や聞き方など)を児童に教え、それを活用する場の設定や評価を繰り返し行い、伝える力を高める必要がある。
- 本時のめあてに対する振り返りを行う時間を確保し、次時への目的意識をもたせることが十分でない。
- 算数の用具を適切に扱う力が十分に定着していない。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

- 「板橋区授業スタンダード」や「桜川学習スタンダード」に基づいた授業を行い、基礎・基本の学力の確実な定着を目指す。また、学習に対する心理的安全性を高められるよう、児童が「安心」できる学びの環境を整え、授業改善を推進する。
- 放課後の時間等を活用して全学年補充教室を行い、ユニバーサルデザインの視点をもちながら個に応じた指導の充実を図る。
- 総合的な学習の時間を軸とした探究的な学習活動・地域環境を生かした学習活動を重視し、児童の課題を見付ける力、課題解決に向けた見通しをもち協働して取組を進める力、情報を活用して課題を解決する力の育成を図る。
- GIGAスクール構想に基づいたICT機器、特に一人一台端末を有効活用した授業改善を推進する。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」の、学習の流れを定着させ、学力の向上につなげる。 ○児童が自分に合った学習内容、方法、ペース、順序を自己選択して学ぶ場面を設定した単元を構成し、主体的な学びを促す。	○児童のつまずきを考え、基礎的読解力の6分類等の視点をもった学習活動を取り入れる。また、「認識(INPUT)→思考(THINK)→表現(OUTPUT)」の学習過程を意識した授業展開を行い、特に児童が主体的にOUTPUTする場を確保する。	○カリキュラム・マネジメントの視点を持ち、各教科等の学びを、「総合的な学習の時間」の学習活動につなげられるようにする。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○「桜川 学びのエリア」として、総合的な学習(探究的な学習)の研究を深め、9年間の学びの連続性やゴールを意識しながら計画的に指導する。特に、児童・生徒が主体的に課題解決に取り組む力の育成を図る。 ○城北中央公園等の豊かな自然環境や地域との交流がある環境を生かし、地域・SDGs・キャリアに着目して学習に取り組む。地域人材・地域教材を活用した授業づくりを行うことで、地域に対する親しみと愛着(郷土愛)をもつ児童の育成を図る。	○単元指導計画を立てる段階から、各教科等の学習内容との関連性を意識して学習指導を行うことで、多教科にわたり、児童が学習課題を見だし探究する力の育成を図る。 ○総合的な学習の時間や生活科を中心に子どもの実態、地域の実情に合わせカリキュラム・マネジメントを編成し、地域や社会とのつながりを重視し、そこで得た学びを子どもたちが将来に生かせるように推進する。	○一人一台端末を活用し、自己選択や自己決定する学習や、自分の思いや考えを表現する学習を展開し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。 ○ミライト等の活用による相互評価の効率化や、クラウド機能を活用した授業づくりを進める。 ○GIGAスクール推進支援員との連携を図り、ICT機器を生かした教材の開発や実践を行う。また、ICTに関する校内研修を設定し、教員のICT機器操作・活用能力の向上を図る。